

01 末端としてのプロダクト

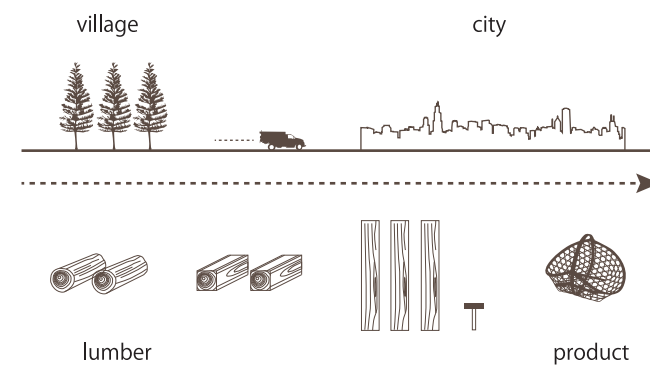
現在都市における木の形態はたいていプロダクトとしてもしくは建築の内装として展開されることが主である。それらは、その形態にまで加工されてきた背景を持ちながらもその背景はなかったかの様に、ディスプレイされるだけである。本提案ではこのことを問題に置き、木の流通とその形態自体を都市におけるひとつのビジネスモデルとして提案する。



02 森と都市の関係を可視化する

現在の木の流通は、外材を抜きにしてみれば地方と都市を横断した遠距離での輸送形態である。それらは地方において伐採され、製材、乾燥を経て都市近郊の加工業者へと送られる。最終的にはプロダクトとして都市に輸出される。

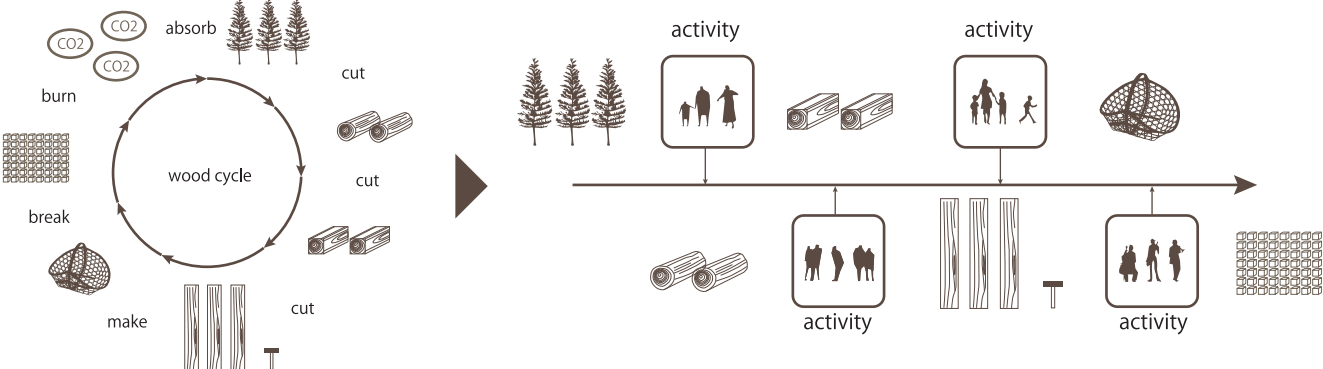
本提案では、この木加工のプロセスと場所の関係をあえて前すことで起こりうるアクティビティや経済的なメリットに言及し、その集約としての木高層ビルの提案を行う。



03 プロセスに人を埋め込む商業モデル

この建築に展開される木のプロセスには、その間と間に人々係る機能を挿入する。製材体験や木の資料ギャラリー、木工体験など人々を木の流通プロセスに関係付けることで、人々を巻き込み、これまで単に製品化されディスプレイされるだけであった木の形態プロセスを相解きひとつの建築に展開していくことを構想する。

またこの建築には木に関わる川上から川下までの企業がそのサテライトとして係ることで、管理運営される建築。この建築はひとつのプロダクトの出来上がる過程を可視化することでの利点を活かした商業モデルとして都市に展開していくとともに、これまで関係の薄かった都市と地方の関係を再認識させるものとなる。

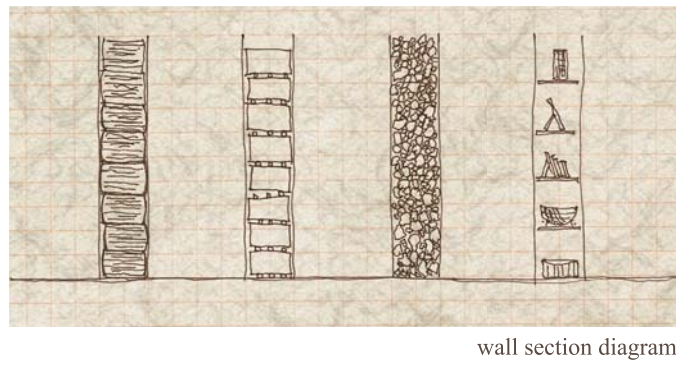


04 木プロセス壁のつくる環境

木の形態のプロセスによって、4つの壁面を提案する。

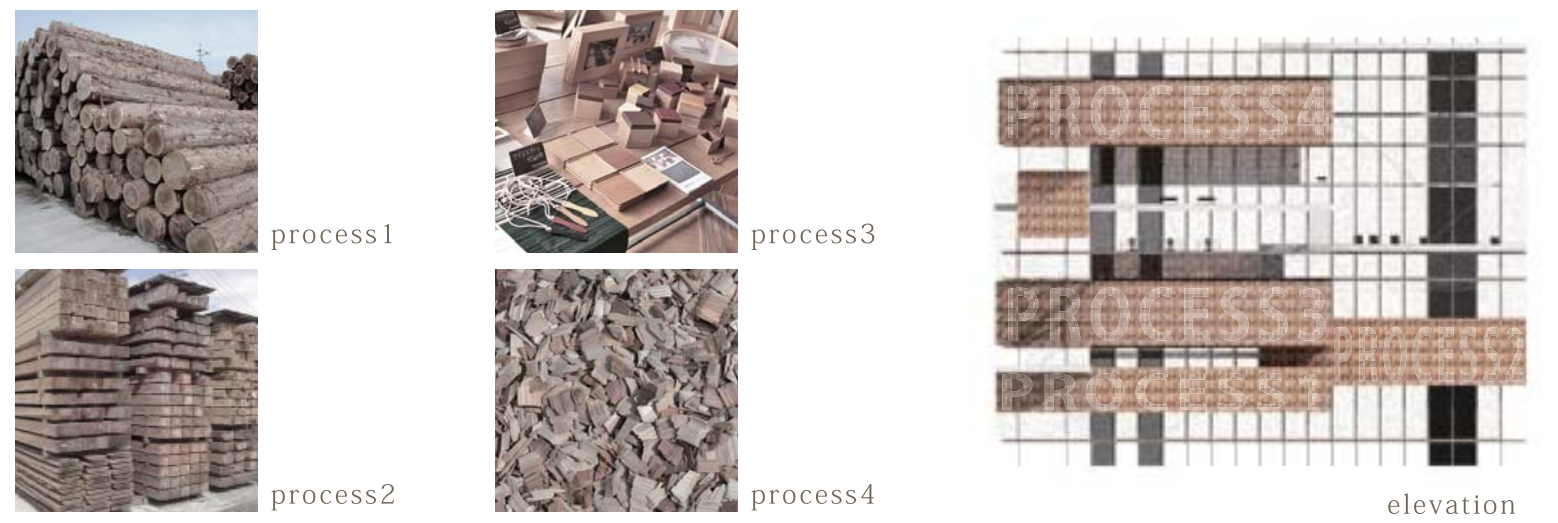
- 1: 製材前の木壁
- 2: 桧組みの木壁
- 3: 木チップの壁
- 4: 木プロダクトのディスプレイの壁

それぞれの木の状態によって光の入り方、調湿効果、防熱、蓄熱の違う木壁面を構成する。



05 変化し建築自身が広告するファサード

4つの壁面は都市に対して、この建築の変化する顔を見せる。木がそのプロセスの中で、ストックの量は流動的に変化し壁面の可視化された様子は常に変化し続ける。常に変化を続けるこの建築のファサードは都市の人々に対して、ある種広告の役割を果たし、この建築自身がその中でのアクティビティを広告し続ける。



06 伸縮する木インフィル空間

この建築は、4つの要素で構成している。

- 1: outer skin
- 2: core facility
- 3: wood process wall
- 4: wood infill

アトリウムなどに充填される wood infill は、大空間の視覚効果を残しながらも、様々な機会において布などの簡単なバージョンの仕掛けで、伸縮可能な空間を作り出すことができる。

また wood process wall 内部とアトリウムは断面的に千鳥状に配置されることで、互いに連携を取りながら、木のワークショップや展示会、体験イベントなど人々のアクティビティを支える。



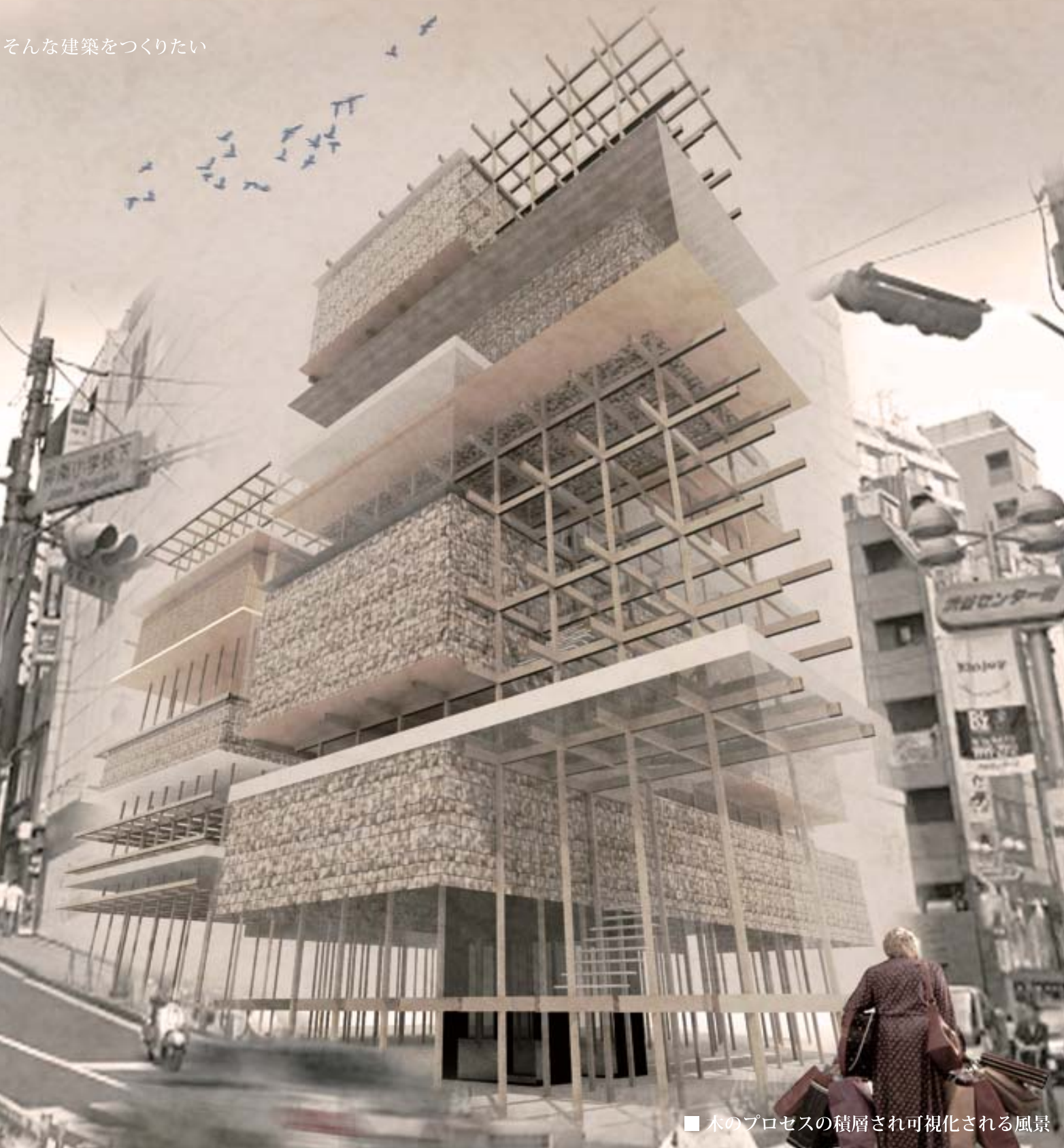
Tree life architecture / complex of product process

私たちは渋谷で買い物をしている

そこにはなんでもあり、なんでも手に入る

そんな満ち足りた都市にないもの

そんな建築をつくりたい



■ 木のプロセスの積層され可視化される風景



■ 木インフィルの使いこなされるアトリウム



■ アトリウムの wood infill



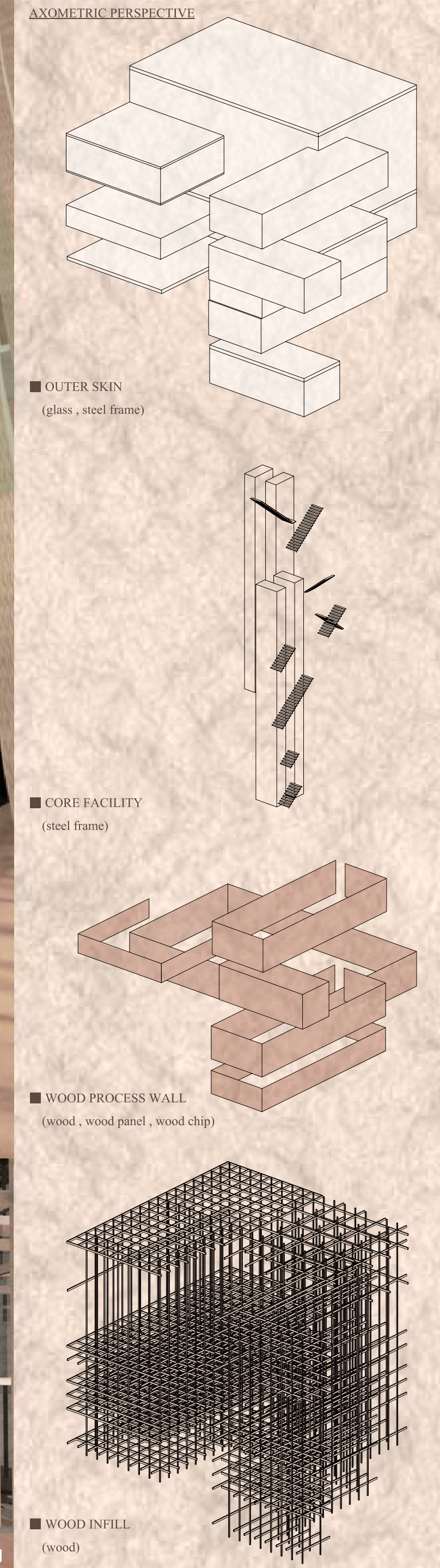
■ 桧組み越しに光の入る風景



■ アトリウムゆるやかにつなげる木のプロセス

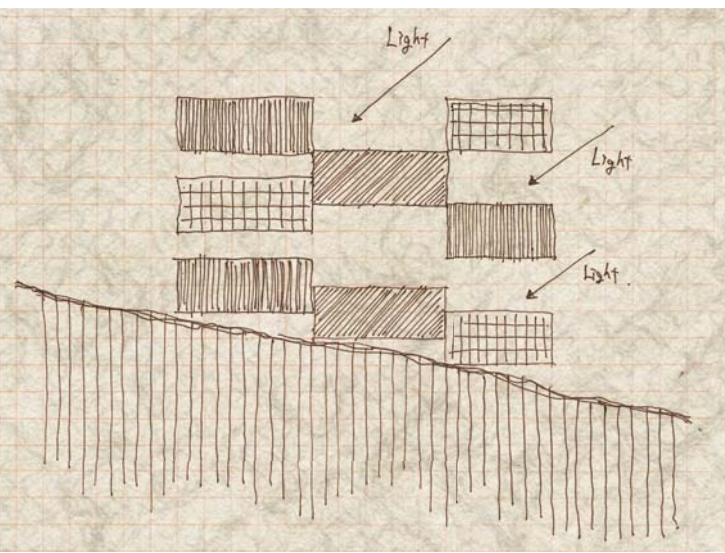


■ 木のプロセスが可視化される空間



07 人と環境を取り込む千鳥断面

建築の構成は断面で千鳥状の構成をとっている。木のプロセスを変える volume と人々の木のアクティビティの場が互いにゆるやかにつながり、関係を常に持っている。また千鳥状に空いた空間からは、採光や通風を確保することで、狭小な渋谷の敷地においても建築内部の環境を豊かにする。



section diagram

